

白神の絆

林野庁
東北森林管理局
津軽白神森林生態系
保全センター
平成30年3月16日
No.141

青森市内で親子木工教室を開催しました

平成30年2月24日（土）、25日（日）の両日、「白神山地ビジターセンターがやって来た in 青森市&Kids フェア 2018」が青森市にある県総合社会教育センターで開催されました。このイベントは、世界自然遺産白神山地の価値及び白神山地ビジターセンターを広く県民に周知させ、施設の利用拡大を図るとともに、自然環境への関心と理解を深めてもらうため、白神山地周辺の関係団体とともに開催しており、当センターでは地域振興の活性化につながる木材利用を促すため、親子による木工教室を行いました。抽選により2日間で概ね80組の親子が青森県産材のスギを使用した多目的ラックの作成に取り組み、親も子も熱中しながら木工教室を体験していました。



親子木工教室の様子

また、林野庁の若手職員によるボランティアチーム「やまぼんず」は、森林バーチャル体験や水源の森ジオラマ作りのコーナーを担当し、家族連れや子どもたちが国産材を使ったキーホルダーやジオラマ作りなどを体験して、好評のうちに終了したところです。

今回は県都青森市での開催ですが、天気が悪いなかイベント来場者は約9千名におよび、大盛況のうちに終わることとなりました。今後も広く世界自然遺産・白神山地を紹介する白神山地ビジターセンターと連携した取組を行っていきたく考えています。（吉川）



チーム「やまぼんず」のブースの様子

今後も広く世界自然遺産・白神山地を紹介する白神山地ビジターセンターと連携した取組を行っていきたく考えています。（吉川）

中・大型哺乳類調査結果

昨年 4～12 月に実施したセンサーカメラによる哺乳類調査では、全 30 調査地点から合計 14 種 2045 個体の哺乳類が撮影されました。最も撮影個体数が多かった種はタヌキの 358 頭で、次いでアナグマ 354 頭、ニホンザル 323 頭、カモシカ 284 頭、ツキノワグマ 166 頭・・・と続きました。



①ニホンジカ若齢♂（2017. 10. 31 深浦町 吾妻川）

ニホンジカ①は 6 箇所から合計 9 頭が撮影されましたが、いずれも♂もしくは性別不明で、環境省や青森・秋田県、藤里森林生態系保全センター等で設置しているカメラでも未だ♀は撮影されていません。撮影数自体は年々増加傾向にありますが、まだ白神山地周辺に定着はしていない様子です。

昨年 8 月号で途中経過をお伝えしていましたハクビシンは、最終的には 19 箇所から合計 91 頭もの個体が撮影されました。ハクビシンは深浦町に設置したシカ捕獲用の囲いわな周辺でも何度も動画撮影されており、子ども 2 頭を連れた親子も確認されました②。親子は大間越の津梅川でも撮影されており、白神山地周辺では既に繁殖している事が確認されました。



②ハクビシンの親子（2017. 11. 17）

写真①のニホンジカは、わなから僅か数十 m 離れた場所で撮影されたものですが、今年度もわなで捕獲されることはあり

ませんでした。しばしば檻の脇を歩く姿が動画撮影されて頭を悩ませたのがカモシカで、檻の錆を舐める行動も見られました③。カモシカが写る度に、錯誤捕獲を防ぐために入口のゲートを固定していましたが、そんな時に限って①が撮影されたりして、なかなか上手いかないものです。センサーカメラの調査、わなの設置とも到来年度も継続して取り組んでいきます。



③檻を舐めるカモシカ (2017. 10. 22)

今年度のセンサーカメラの調査報告書を当センターHPに掲載しましたので、興味のある方はご覧下さい。(有本)

ニホンジカ探しのついでに

近年、何かと話題になるニホンジカ。白神山地周辺での目撃例が年々増えており、今後増加し定着されることで、農作物・森林への被害が心配されています。そんなシカさん達、夏場はあちこちで目撃されているが、冬場になるとあまり目撃談が聞こえてこなくなります。

そういうことから冬場の活動拠点となる越冬地があるのではと考え、冬でも積雪の少ない鱒ヶ沢町と深浦町の沿岸部を重点的に探査してみました。闇雲に姿を探しても見つからないので、雪がある場所なら足跡が残っているかなと思い、足跡を探すところから探査を開始。深浦町の鱒木沢林道沿い等で、シカの足跡が見つかるものの、それだけでは、カモシカとニホンジカの判別が出来ないので、足跡を辿り食痕や糞を探したが見つからず。雪が降る前は、それなりに目撃情報あったのに、いったい何処へ。毎週同じポイントを見回っているんだから一度くらい姿を見せろと。残念ながら2月までの見回りでは、何も成果がありませんでした。

ニホンジカの痕跡は、今後も根気強く探査しますが、探査ついでに見つけた他の動物の痕跡を紹介したいと思います。

まず、至る所で見かけたのがウサギの足跡①で、国道101号沿いの斜面とか縦横無尽に駆け回った跡がよく見られます。



①ウサギの足跡

タヌキも姿を見かけない割には、ちゃんと居るよと言わんばかりに足跡をよく残してくれます。写真②の足跡は、何頭分なのかわかりませんが、活発に動き回った跡が見て取れます。



②タヌキの足跡



②タヌキの足跡(拡大)

次の写真はリスの足跡③。てっきり冬眠してるものか思っていたが、調べたところ寒冷地の種でも冬眠しないようで、冬場もチョロチョロ動き回ってるみたいですね。



③リスの足跡



③リスの足跡(拡大)

お次はカモシカと思われる足跡④になります。写真は雪深い山間部で見つけたもので、パワフルなのか傾斜をものともせず移動してる様が見て取れます。塩分を欲してか、海岸方面に向かう足跡も結構見かけました。天然記念物の貫禄からか、人気がある場所でも気にしないようで…。



④カモシカの足跡



④カモシカの足跡(拡大)



④カモシカの足跡(海岸へ)

最後の写真は、サルの足跡⑤です。探査を始めてから2ヶ月目にして、ようやく目にする事ができました。比較的新しい足跡だと思った矢先、すぐ近くの木に登っている姿を確認。目が合っちゃいけないですね。思いっきり威嚇されてしまいました。



⑤サルの足跡



⑤サルの足跡(拡大)

普段何となく眺めている雪原も、注意して観察すると色々な動物の足跡があり、ここで生息してるよと、存在をアピールしてる様に感じたところです。

ニホンジカの越冬地探査は、今後も継続します。調査エリアは海岸・里山が中心で、人がよく立ち入るエリアです。もしかすると記事を読んでもらってる皆様の中で、鱒ヶ沢町・深浦町にて、散歩時や観光の際に目撃する機会があるかと思います。その場合は情報提供いただけると助かりますので、御協力のほど宜しくお願いします。(三浦)

今月の一枚

専門官 有本 実



マガン (2016. 3. 12 鶴田町 津軽富士見湖)

前年の秋、シベリアから日本に渡ってきた十数万羽のマガン達。日本最大の越冬地である宮城県の伊豆沼周辺で冬を乗り切った彼らの一部が、北帰行の途中で津軽富士見湖に立ち寄り、一時羽を休めます。ここから北海道の宮島沼へ、そしてカムチャッカ半島からシベリアへ。マガンの長い旅の途上を、限りある自分の人生と重ねる人は少なくないでしょう。これまでに何をやり遂げて、これから何処に向かうべきか。毎年一度だけ自分の立ち位置を確認する3月は、私にとって特別な月です。

【編集後記】

本誌1月号1ページ目の写真・・・？どこでしょう？・・・の答えは、城ヶ倉溪谷です。城ヶ倉大橋から上流側を見て向かって右側の岩壁を、やや望遠気味に撮影しました。橋の上で白神山地ブナ林モニタリング調査会の皆様とぼったり出くわす、という楽しいハプニングも。(有本)

〈発行〉津軽白神森林生態系保全センター

〒038-2754 青森県西津軽郡鱒ヶ沢町大字米町 25-2 電話:0173(72)2931 FAX:0173(72)2932

